

多摩川ワンドにおける希少植物の記録について

佐藤登喜子*・吉留憲子*・高中健一郎**

Record of rare plants at the riverside pools of Tama river in Kawasaki City

Tokiko Sato*, Noriko Yoshitome* and Kenichiro Takanaka**

はじめに

川崎市内の湿地は丘陵の埋め立てや開発などにより減少しており、また市内の河川は護岸工事や土手の工事など行われたことにより水辺や河原に近づけなくなるなど、水湿地の植物の調査をする場所も限られている。そのような状況ではあるが、多摩川の河原にはワンドと呼ばれる大小の池があり、川崎市多摩区に位置する登戸駅の北側の多摩川ワンド周辺は多摩川本流水辺には大きな石を敷く工事はされているが、水辺に近づくことができる。

これまで、著者らは多摩川登戸ワンド周辺の植物について土手、河原、水中・湿地の3地区合わせて239種を確認している(佐藤ほか, 2023)。その後も調査を継続した結果、神奈川県レッドデータブック2022(田中ほか, 2022)で絶滅危惧等に指定される種や川崎市でこれまでの記録が少ない種を確認できたため、ここに報告する。

材料および方法

調査区域は、小田急小田原線多摩川橋梁下から二ヶ領宿河原取水口までの多摩川本流およびワンドの水湿地とし、2023年4月～10月まで7回調査を行った。今回の調査では、特定非営利活動法人エコミュージアムの特定外来種調査に同行したことにより、普段は立ち入れない河原中央部の植物が繁茂している場所まで調査ができた。なお、本稿で記載する種は希少植物であるため生息地に繋がるような詳細地名は記載しない。

同定の際は、神奈川県植物誌2018(神奈川県植物誌調査会編, 2018)に準拠した。今回確認できた希少植物については、植物標本を作製し、川崎市青少年科学館の種子植物分野の登録番号であるKMM-SPを付番し、当館に収蔵した。

結果

本調査で確認できた希少植物は以下のとおりである。

ヤマノイモ科 DIOSCOREACEAE

ニガカシュウ *Dioscorea bulbifera* L.

採集記録

[多摩区] 1ex, 登戸(多摩川), 20230924, 吉留憲子, KMM-SP-190987, 1ex, 登戸(多摩川), 20230924, 佐藤登喜子, KMM-SP-190988.

つる性の多年草。茎が他のものに絡まって伸びる。雌雄異株。葉は同じヤマノイモ科のオニドコロに似るが、本種は円心形で葉柄が長く、葉柄の先に縮れたヒレがある。基部は耳状に張り出し茎を抱く。葉腋にイボ状の突起のあるムカゴを付ける。雄花序は下垂し、はじめ淡い緑色、開くと薄紫色になる。

県内では結実せず、珠芽による栄養繁殖が主体とされる(神奈川県植物誌調査会編, 2018)。これまでに川崎市内では川崎区(吉田ほか, 2016)と中原区(神奈川県植物誌調査会編, 2018)で確認されているが、多摩区では今回が初記録となる(図1)。

図1. ニガカシュウ *Dioscorea bulbifera* L.

ガマ科 TYPHACEAE

ミクリ *Sparganium erectum* L.

採集記録

[多摩区] 1ex, 登戸(多摩川), 20230506, 吉留憲子, KMM-SP-190934.

池や沼など浅い水中に生える草丈60～120cmになる多年草で、花期は6～7月である。雌雄同株で雄花序を上部に多数つけ、雌

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

**川崎市青少年科学館(かわさき^{そら}宙と緑の科学館) Kawasaki Municipal Science Museum

花序を下部に2、3個付ける。雌花序は成熟すると直径15~20mmの集合果となり、この集合果をクリのイガに見立てて名が付いた。葉は直立して茎より長く線形。裏面中央に低い稜がある。

本種は神奈川県レッドデータブック2022で準絶滅危惧種に指定されており、生育環境が局地的な点で脆弱性があるとされる(田中ほか, 2022)。これまでに川崎市内では多摩区と宮前区で確認されている(吉田ほか, 2016; 神奈川県植物誌調査会編, 2018)。多摩川での記録は、今回が初記録となり、調査でワンドの水たまりで見つかった(図2)。



図2. ミクリ *Sparganium erectum* L.

カヤツリグサ科 TYPHACEAE

フトイ *Schoenoplectus tabernaemontani* (C.C.Gmel.) Palla

採集記録

[多摩区] 1ex, 登戸(多摩川), 20230924, 佐藤登喜子, KMM-SP-190989.

池や沼、河川に生える高さ80~160cmの大型の多年草で、名は全体に茎が大きく丸く、太いイグサに似ている事による。根茎は太く横にはい、群落を作ることもある。花期7~9月で、茎の先に花序が付き、小穂の基部から枝を出しその先に多数の小穂が散房状に付く。

これまでに川崎市内では全区で確認されているが、2001年以降に確認されているのは麻生区と多摩区のみである(神奈川県植物誌調査会編, 2018)。多摩川ワンドでは池を石で埋め立てたところに出ていたところを今回初めて確認できた(図3)。



図3. フトイ *Schoenoplectus tabernaemontani* (C.C.Gmel.) Palla

ミコシガヤ *Carex neurocarpa* Maxim.

採集記録

[多摩区] 1ex, 登戸(多摩川), 20230608, 佐藤登喜子, KMM-SP-190960.

湿った草地や河原などに生える草丈30~50cmの多年草で花期は5~6月である。花序の形が神輿に似ていることから名が付いた。茎は鋭い3稜形で叢生する。小穂は多数集まって3~6cmの円柱状の花序を作り、上部に雄花、下部に雌花を付ける。花序の基部にある葉状の苞葉は長くて目立ち、果苞には広い翼があるのが特徴である。

県内ではおもに河川敷に見られるが少ないとされ、これまでに川崎市内では宮前区と高津区以外で確認されている(神奈川県植物誌調査会編, 2018)。本種については、2010年以降の川崎市内での確認は麻生区のみでのあった(吉田ほか, 2016; 神奈川県植物誌調査会編, 2018)。多摩区では10年以上確認されていなかったが、今回その生息が確認できた(図4)。



図4. ミコシガヤ *Carex neurocarpa* Maxim.

ヤガミスゲ *Carex maackii* Maxim.

採集記録

[多摩区] 1ex. 登戸 (多摩川), 20230506, 佐藤登喜子, KMM-SP-190956

河原や湿った草地に生え叢生し、草丈 40～60cm の多年草であり、花期 5～6 月である。茎は叢生し、鋭い 3 稜形で、花序を茎の上部に 10 数個ややまばらに付ける。小穂は卵球形で先端に雌花序、下部に雄花序がある。果苞は成熟すると反り返る。

本種は神奈川県レッドデータブック 2022 (田中ほか, 2022) で絶滅危惧 II 類に指定されており、県内では川崎市多摩区、幸区多摩川などで確認されているが、生息地は限られ (神奈川県植物誌調査会編, 2018)、川崎市内では 2010 年以降確認されていなかった (吉田ほか, 2016)。今回は河原のヨシなど植物の茂みの中で確認できた (図 5)。



図 5. ヤガミスゲ *Carex maackii* Maxim.

ジョウロウスゲ *Carex capricornis* Meinsh. ex Maxim.

採集記録

[多摩区] 1ex, 登戸 (多摩川), 20230506, 佐藤登喜子, KMM-SP-190956.

川岸や沼などの水湿地に生える高さ 40～60cm の多年草で、花期は 5～6 月である。果穂がこの類では大きく、楕円形で穂をたれ下げた様子を「上臈 (身分の高い女官)」に例えて付いた名という。

稀な植物で、本種は神奈川県レッドデータブック 2022 (田中ほか, 2022) で絶滅危惧 IB 類に指定されている。本種の基産地は箱根とされ、箱根の記録や海老名市産の古い標本が残されているのみで、その後 100 年近く県内からは採集されていなかった (神奈川県植物誌調査会編, 2018)。その後、2001

年に多摩川での生育が確認され (吉田, 2003)、100 年振りの再発見となった。県内では川崎市多摩区と川崎区でのみ確認されており、多摩区では 2010 年以降確認されていなかったが、今回その生息が確認できた (図 6)。生息地が極めて限られていることから、今後もその生息状況を注視していく必要があると考える。



図 6. ジョウロウスゲ *Carex capricornis* Meinsh. ex Maxim.

マメ科 FABACEAE (LEGUMINOSAE)

カワラケツメイ *Chamaecrista nomame* (Makino) H.Ohashi

採集記録

[多摩区] 1ex, 登戸 (多摩川), 20220913, 吉留憲子, KMM-SP-190265.

河原や道端に生える草丈 30～60cm の多年草で、花期は 8～10 月である。名は「河原決明」の意で、決明はお茶や生薬にするエビス草の漢名。葉は偶数羽状複葉でネムノキの葉に似ているが小さい (図 7)。花は葉腋に 5mm ほどの小さな黄色の 5 弁花を咲



図 7. カワラケツメイ *Chamaecrista nomame* (Makino) H.Ohashi

かす。豆果は3~4cmで、熟すと鞘がねじれて種を弾き飛ばす。

県内の低地を中心に広く分布し、低地、丘陵地の川原、土堤等にしばしば群生するとされるが、川崎市内での生息地は限られている(神奈川県植物誌調査会編, 2018)。神奈川県レッドデータブック 2006(高桑ほか, 2006)で絶滅種に指定されているツマグロキチョウの食草であり、本種の生息状況がツマグロキチョウの生息に大きく関わっていると考えられることから、今後もその生息状況を注視していく必要がある。

シソ科 LAMIACEAE (LABIATAE)

ミゾコウジュ *Salvia plebeia* R.Br.

採集記録

[多摩区] 1ex, 登戸(多摩川), 20230506, 佐藤登喜子, KMM-SP190935.

やや湿った草地や水辺に生える越年草で、草丈は30~60cm、花期は5~6月である。根生葉で越冬するが開花時には枯れる。茎は四角形で立ち上がり、枝先に花穂を出し薄紫色の唇形の小さな花を多数つける(図8)。秋に咲く同じシソ科のイヌコウジュに似るが、本種は初夏に咲き、イヌコウジュは秋に咲く。

県内ではおもに県中央部の沖積地~多摩丘陵に分布し、シイ・カシ帯の湿った草地や水田畦などに生え、川崎市内では多摩区と中原区が多摩川で確認されている(神奈川県植物誌調査会編, 2018)。神奈川県レッドデータブック 2022での指定はないが、環境省のレッドデータブック(環境省, 2014)では準絶滅危惧種に指定されている。



図8. ミゾコウジュ *Salvia plebeia* R.Br.

おわりに

今回調査した河川の湿地環境については、開発などによる減少とともに、台風による河川の氾濫の影響で、動植物の生息環境が短期的に一変する可能性を持っている。絶滅危惧種等の貴重な生息環境である一方で、生息環境が脆弱であることから、今後も生息状況の確認を継続し、注視していくことが重要であると考えます。

謝辞

特定非営利活動法人多摩川エコミュージアムの緒方雅子氏にはワンド周辺の情報と写真をご提供いただき、また同氏の調査にも同行させていただいた。ここに厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 神奈川県植物誌調査会(編), 2018. 神奈川県植物誌 2018. pp. 161-166, 神奈川県植物誌調査会・神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 環境省, 2014. レッドデータブックー日本の絶滅のおそれのある野生生物ー8 植物I(維管束植物). ぎょうせい, 東京.
- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久, 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. 442pp, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 田中徳久・勝山輝男・秋山幸也・大西 亘・田村 淳・山本 薫・石田祐子, 2022. 維管束植物. 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編, pp. 44-326. 神奈川県, 横浜.
- 吉田三夫, 2003. ジョウロウスゲの生育環境について. 川崎市青少年科学館紀要, (14): 35-36.
- 吉田多美枝・佐藤登喜子・吉留憲子・佐崎藤子・佐藤ミツ子・白井美智子・白沢光代・武久春美・谷口紀美代・田渕まこと・林美幸・渡部富子, 2016. 川崎の種子植物相. 川崎市自然環境調査報告 (VIII), 1-34. 川崎市教育委員会・特定非営利活動法人かわさき自然調査団.